

主題：パウロの書簡における真理の重要な項目
——コリント人への第一の手紙

メッセージ 5

神の耕された地また神の建物としての召会のために、神の奥義の執事となる

聖書：I コリント 3:9-12 前半、4:1-2、イザヤ 22:15, 19-24、啓 3:7、ルカ 11:5-13

I. キリストの中で、神の命をもって再生された信者たちは、神の耕された地、神の新創造の畑であって、キリストを成長させ、それによって尊い材料が神の建物のために生み出されます——I コリント3:9-12前半：

A. 全聖書の中心思想は、命と建造です——I ペテロ 1:23、2:2-5：

1. 命とは、三一の神がキリストの中で具体化され、そしてその霊として実際化されて、ご自身をわたしたちの中へと分与し、わたしたちの享受となることです。建造とは、召会、キリストのからだ、神の霊の家であって、それは神の拡大また拡張となって、神を団体的に表現します——創 2:8-9、22、マタイ 16:18、コロサイ 2:19、エペソ 4:16。

2. キリストは命の種として、わたしたちの内側の命の力であって、命と敬虔にかかわるすべての事柄を、わたしたちにすでに与えています。それは、命の成長と発展を通して、命の豊富な余剰また命の表現としての召会を建造するためです——II ペテロ 1:3-4、参照、使徒 3:15。

B. 神の建物は生きているので、それは成長しています。神の家としての召会の実際の建造は、信者たちの命の成長によります——エペソ 2:21：

1. わたしたちは神の建造のために命において成長するには、主を愛し、わたしたちの霊に注意を払い、わたしたちの心を十分に警戒して守って、命の道にとどまらなければなりません——I ペテロ 1:8、2:2、5、3:4、15、箴 4:18-23、申 10:12、マルコ 12:30。

2. キリストの命がわたしたちの中で妨げられないことをわたしたちが願うなら、わたしたちは十字架の砕き、すなわち、すべてを含むキリストの霊の中にあるキリストの殺す死を経験しなければなりません。それによって、わたしたちの内側にある以下の障害物は対処され、除き去られることができます——出 30:22-25、ピリピ 1:19、詩 139:23-24：

a. クリスマンとなることの意味は、キリスト以外のどんな事もわたしたちの目標にしないということです。この事の障害は、命の道を認識しないこととキリストをわたしたちの命としないことです——マタイ 7:13-14、ピリピ 3:8-14、コロサイ 3:4、ローマ 8:28-29。

b. 第二の障害は、偽善です。一人の人の霊性は、外側の現れによって決められるのではなく、彼がどのようにキリストを顧みるかによって決められま

す——マタイ 6:1-6. 15:7-8. ヨハネ 5:44. 12:42-43. 参照、ヨシュア 7:21。

c. 第三の障害は、反逆です。わたしたちは物事を行なうことにおいてとても活発で熱心であるかもしれませんが。しかし、依然として、キリストを無視することによって、わたしたちの内側の生けるキリストを獄に閉じ込め、従わないかもしれません——レビ 14:9, 14-18. 11:1-2, 46-47. ローマ 16:17. I コリント 15:33。

d. 第四の障害は、わたしたちの天然の能力です。もしこれらの天然の能力が、わたしたちの中で砕かれないままであるなら、それらはキリストの命にとって問題となるでしょう——I コリント 2:14-15. 3:12, 16-17. ユダ 19 節. 参照、レビ 10:1-2。

C. わたしたちは神の建造のため命において成長するために、悪巧みのない神の言葉の乳で養われなければなりません——I ペテロ 2:2 :

1. 言葉の中の養う乳としてのキリストを食することによって、わたしたちは成長して、全き救いへと至り、造り変えを通して円熟へと至り、栄光化されます。I ペテロ第 2 章 2 節の救いは、神の建造のための造り変えという事柄です。

2. わたしたちは「乳・キリスト」を享受して、養われます。それによってわたしたちは、「石・キリスト」としての彼をもって造り変えられ、そして「からだ・キリスト」として建造されて、神の霊の家となって、聖なる祭司の体系となります——2-5 節. I コリント 12:12-13。

II. わたしたちはみなキリストにある信者として、エリアキム（イザヤ22:20-24）によって予表されているように、神の家の執事としてのキリストと一になることによって、神の建造のために神の奥義の執事となるべきです（I コリント4:1-2. コロサイ2:2. エペソ3:4）:

A. キリストは、その方の上に、神の家（神の王国を建造するためのダビデの家によって予表される）の（宝物倉の）かぎが置かれている方です ——イザヤ 22:15, 20-22. 啓 3:7。

B. 神は、王の家の執事であるセブナを解雇して（イザヤ 22:15-19）、キリストの予表であるエリアキムに置き換えました（20-24 節. 啓 3:7）。これが啓示していることは、神が十字架上ですべての人を解雇し、そしてすべての人をキリストで置き換えているということです:

1. 神はわたしたちを創造したとき、わたしたちを雇用しました。そして、彼はわたしたちを十字架に置いて、わたしたちをキリストと共に十字架につけたとき、わたしたちを解雇しました——ガラテヤ 2:20。

2. 一方において、わたしたちは解雇されました。他方において、わたしたちは追放されていません。というのは、キリストはやって来て、わたしたちの中で、わたしたちと共に、わたしたちによって、わたしたちを通して生きているからです——20 節。

3. 何であれ、だれであれ、キリストでないものを、神は解雇します。神は、彼の旧約エコノミーのあらゆるものを、キリストで置き換えました——マルコ 1:1-8. マタイ 17:3-5. コロサイ 2:16-17. ヘブル 10:5-10. 11:5-6.
4. 真の召会生活とは、すべての聖徒が解雇され、キリストで置き換えられ、キリストを召会の中のすべてとする生活です——コロサイ 3:10-11.
- C. キリストは、神の宝物倉の扉を支配するダビデのかぎを持っている方です。この宝物倉の中には、キリストにある神の豊富があり、わたしたちの享受となります。わたしたちは彼の豊富を享受するために、わたしたちの思いを霊につけて、命の感覚にしたがって主との接触の中にとどまり、霊の中で貧しくなり、心が純粹になる必要があります——啓 3:7-8. ローマ 8:6. マタイ 5:3, 8.
- D. わたしたちは宝としての彼の豊富を享受するために、自己を否み、十字架を取り、魂の命を失うというかぎを活用することを学ぶ必要があります。わたしたちすべてはセブナであって、除き去られ、キリストによって置き換えられるべきです。それは、彼がわたしたちのすべてとなり、また彼がわたしたちの中で、わたしたちを通して、わたしたちのためにすべての事を行なうためです——イザヤ 22:15-19. マタイ 16:24-25.
- E. その霊としてのキリストは、神の家の執事であり、増し加わる恵みとしてのご自身をわたしたちの中へと分与し、わたしたちの時々刻々の供給また常時の享受となります——ヨハネ 1:16-17. II コリント 12:9. I ペテロ 4:10. エペソ 3:2.
- F. ダビデのかぎはわたしたちのために扉を開き、わたしたちは造り変えられて白い石となり、また神の家の中へと建造されて柱となり、神の御名と、新しいエルサレムの名と、主の新しい名を持ちます——啓 2:17. 3:12. 参照、21:22.
- III. 神の建造としての召会のために神の分与する執事となるには、わたしたちは祈りの人となって、自分自身を神の中へと祈り込まなければなりません：**
- A. 祈ることは、わたしたちが無であり、何もすることができないことを認識することです。祈りは、わたしたちの自己を真に否み、拒絶することです。それによってわたしたちは、キリストをわたしたちのすべてとして享受します——コロサイ 4:2. ガラテヤ 2:20. ピリピ 3:3. 4:6-7, 11-13.
- B. 祈りは、わたしたちが自分自身を神の中へと祈り込むことを意味します。自分自身を神の中へと祈り込むことは、マリアが主の足もとに座って主の言に聞き入るという模範にしたがって、わたしたちの全存在を完全に彼の上に置くことによって、主を愛することです——ルカ 10:38-42：
1. しばしばわたしたちの経験において、わたしたちは神からそらされます。わたしたちは神の中に居続きません——わたしたちは彼の中にとどまりません。こういうわけで、わたしたちは自分自身を神の中へと祈り込む必要があります。
2. わたしたちは容易に神からそらされるので、毎朝、彼と共に時間を費やして、自分自身を彼の中へと祈り込むべきです——詩 5:3. イザヤ 50:4.

- C. わたしたちは自分自身を神の中へと祈り込むとき、彼の豊富（パンと魚と卵によって表される）を自分の存在の中へと受けて、わたしたちの供給とします——ルカ 11:5-13 :
1. パンは、地の豊富を表します。魚は、海の豊富を表します。卵は、空中と地上の両方にあるものの豊富を表します。聖霊は、これらの豊富の総合計です。
 2. わたしたちは自分自身を神の中へと祈り込んで、彼の中にとどまっているとき、聖霊をわたしたちの命の供給（パンと魚と卵によって表徴される）として受けます。それによってわたしたちは、自分自身と自分の顧みの下にあるすべての人たちを養うことができます——参照、6:45。
- D. 自分自身を神の中へと祈り込み、また祈りの中で神の御前にへりくだることによって、わたしたちはキリストの中で力づけられ、自分自身を拒絶し、わたしたちの物質の所有すべてを放棄し、人・救い主に従います—— 18:18-30 :
1. わたしたちの人の命によっては、これは不可能です。しかし、新約時代では、わたしたちが神に触れ、神と交わりを持つときはいつも、わたしたちのすべての不可能は可能になり、わたしたちのすべての無能は有能になります—— 25-27 節. ペリピ 4:11-13. ヨハネ 15:5。
 2. 自分自身を神の中へと祈り込むことによって、わたしたちは力づけられて、この時代における自己の放蕩の生活の麻痺させる影響に打ち勝ちます。そしてわたしたちは、神のエコノミーの実際の中に生き、神の建造としての召会のために神に対して富むようになります——ルカ 12:13-21. II コリント 6:10。